

【めむろ未来ミーティング】

令和3年10月28日(木)

18:30～20:05

公立芽室病院

- 参加者 9人（オンライン1人）
- 芽室町 町長、政策推進課長、公立芽室病院事務長、公立芽室病院参事
- 司会 政策推進課長補佐
- 記録 政策調整係 佐藤主事、角屋主事

- 1 開会
- 2 手島町長あいさつ
- 3 出席職員の自己紹介
- 4 ミーティングシートの説明
- 5 意見交換

■対応等必要事項

下線部分については、対応を要する事項として別途担当部署に対応報告書の提出を依頼します。

意見交換

【ご意見①】

コンサルの導入で病院の経営が非常に改善されたと思っていたが、職員の中でも温度差があると事務長から聞き、まだまだ問題があると感じた。急にコンサルを入れても問題が解決しないのは、民間企業でもよくあること。意識付け・動機付けを行い、自分の仕事のやりがいという根本的な気づきがないと看護師・職員たちの意識が変わらないのではないかと。また、地域包括ケアシステムの構築は限られた人数の中で運営していくと思うので、職員の負担が増えるのではないかと。働き方改革による労働時間の縮小や従来の役割であるかかりつけ病院という役割があるなかで、地域包括ケアシステムとして公立芽室病

院を稼働させることはできるのか。

【手島町長】

コンサルの具体的な成果や状況は事務長の話した通りである。コンサルには3年ぐらい入っていただいて、職員の温度差などをなんとか脱却できるように、対策を考えていただいた。看護師担当の方もいて、医師との連携や看護師の雰囲気を確認していただいて、指摘をいただいている。また経営の面に関しては、診療体制を一体どうするのか、病院の院内の考え方の統一化について考えていただいている。当然、病院の問題なので全然話を私は聞かないということではなくて、どういう行動をしてどういうふうに関院を変えているのか報告もいただき、町として何をすべきかアドバイスも頂いている。こういったことから、診療体制の考え方などコンサルがすべてではないが、効果は非常にあると思っている。コンサルの具体的な効果については改めて事務長から説明を行う。

【病院事務局】

効果を表すことは非常に難しく、新型コロナウイルス感染症拡大など外的要因もあって数字的な効果が見えなくなっているのが効果がわかりにくくなっている。また、地域医療は病院の経営のためだけにやっているわけではなく、病気になった地域の方々を治療して回復させることが目的。正直、病院の経営と医療を重視する職員のギャップがあり、これはどこの病院でもあると思う。この問題を解決するために、事務職だけが病院内で問題を主張していてもなかなか解決につながらないので、外部からコンサルを入れ取り組んでいる。地域包括ケアシステムの構築について、1つ形が見えてきているのは、訪問看護ステーションが来年立ち上がること。それから、訪問リハビリ、訪問看護に関しても申し込みがどんどん増えているので、確実に実績が上がってきている。雇用という視点でも自治体に病院があることは大事だと考えている。専門職の方々なので、その病院に就職しても、やめられて他医療機関に就職されるということは頻繁に行われている。長く勤めても

らうためにも、病院や地域に愛着を持っていただいて、地域の方々を見ていくという、精神的な部分を着実にコンサルの方が職員へ伝えている。院内でもコンサルの方と共に改革していくという雰囲気が徐々に高まっている。最後に、改革を進めていくには様々なことを業務として、抱えていくことになるのは間違いなく、今まで以上に時間外など、今以上の働きをしなければいけない。働き方改革からいうと、できるだけ勤務時間内にいろんな仕事を行っていく必要がある。どのように時間を有効に使うかということに関しても考えなければいけない。詳細な成果についての報告についてはもう少々お時間をいただきたい。

【ご意見②】

公立芽室病院は営利目的ではないという考え方で間違いないか。

【手島町長】

公的病院であるがゆえの不採算部分というのは公的病院の役割からどうしても持っているもので、一般会計で公立病院の運営費を負担したとしても、それは捻出すべきだと思っている。そのスタンスを基本的に変えるつもりはなく、例えば救急医療や医師確保についても町がある程度責任を持って財源的に支援をしていく考え方である。現在、病院改革プランで療養型の病床を作るという記載があるが、新型コロナウイルス感染症の影響で今は中止としている。しかし、最終的な目指す姿は変わっていない。国の支援についてもいろんな場面で述べているが、公的病院として例えばコロナ病床として受け入れるべき使命はあると考えている。国に対してはこういったリスクをある程度背負った公的な病院に対する支援をお願いしている。また、公的病院の不採算部分に対する特別交付税の適用についても交渉・調査を行っている。

【ご意見③】

地域包括ケアシステムはこれから必要だと思う。ただしマンパワーが相当必要。今は成功しているが、

職員の負担が大きくなっているのが現状。それに対して人材の確保や新たな方法を今後見つける必要があるので、計画的に取り組むべきだと思う。看護師や医師も入って辞めてを繰り返すと、今まで築いた繋がりが無くなってしまうので、対策をしっかりと行っていただきたい。

【手島町長】

係長職以上の方々と面談した中で、介護人材が不足しているという意見はあった。一方で看護職自体はある程度充足していると考えている。ただ、様々な部分で足りない部分はあると思うので、人件費など経営的なバランスを取って取り組んでいきたい。今後、慢性期や回復期に関連する事業に取り組むことになれば、地域包括ケアはもちろん必要なので、リハビリに関する人材充足していくという考え方もある。人材確保のバランスを取りつつもしっかり取り組んでいきたい。

【病院事務局】

高齢社会が進み、在宅医療の選択が増えると、診察と診察の間に医師が訪問することになるので、負担が増えてくる。このため、地域包括ケアをすべて公立芽室病院で担うことは不可能である。来年公立芽室病院で開始予定の訪問看護ステーションも、公立だけではなく様々な場所で開かれ、公的なものも併せて民間開業医、薬局、各施設、地域全体取り組み地域包括ケアを進めていくことが望ましい姿である。また、在宅ではなく、施設に入所されている方もいるので、公立芽室病院の医師が嘱託医として町の介護施設に診療訪問を行っている。こういったことから、公立芽室病院を中心に地域全体で連携し合う流れができつつあるので、これからも協力体制を築いていきたい。

【ご意見④】

先日の土曜日に病院の周りの花壇の片付けを行ったが、病院の職員の方がたくさん参加していただいた。毎年参加いただいているが、職員同士のチームワークがすごく取れているなど感じた。そういうチーム

ワークが増えていけばいろんな困難な課題も克服されていくのではとすごく期待している。昨年のコロナの感染者が出た時に、公立病院がコロナの患者さんを受け入れると広報に出ていたが、町長が「公立病院なので当然受け入れるべきで病院として受けることを決めた」という記事があり、全く正しい判断だと感じた。自分自身がコロナに感染した時不安に感じると思うが、受け入れ体制が町で整っているのでこの地域に住んで安心した方も多いのではないかと。コロナ対策で提案だが、感染を抑えるためには感染を早期に見つけて、ある程度の期間他の人に接触させないようにするために、PCR 検査が非常に大事だと思う。そこで、是非 PCR 検査に力を入れていただきたい。公立芽室病院には最新の機器があると聞いた。しかし、検査料が高額のため検査が進んでいないのもっと安い価格で検査を行えるよう検討していただきたい。もう1点、地域包括ケアについて。以前の町のアンケート結果にて、「最後は自宅で過ごしたいが実現は難しい」という項目で1652名、「最後まで自宅で過ごしたい」という項目が499名いた。アンケートの回答数の大体2/3以上の方が在宅生活望んでいる。住民の方々の希望がこのアンケート結果だと思うので、支えてくれる医療体制の構築にむけ取り組んでいただきたい。

【手島町長】

コロナ患者の受入については、様々なリスクがあったが職員へ公立芽室病院の公的役割について理解する機会になったと感じている。また、コロナ患者を受け入れたのでクラスターになったわけではないが、現実にはクラスターを起こしてしまったので、専門の看護師さんの指導を受け、最終的には封じ込めることができた。今後、コロナの波がやってくる可能性もあるので、絶対3回目のクラスターが起きないよう感染対策をしていきたい。そのためにやはり先ほどのPCR検査が極めて重要だというご意見は理解します。また、検査料金の引き下げについてのご意見についても、検討する余地があるのではないかと考えている。感染状況や重症化率に注視しながら、町として考えていきたい。コロナのようないわゆる

災害については総合計画の中に記載していない。総合計画というよりはむしろ災害対応のような形でしっかりその都度やっていくことが必要だと思っている。その中で今のご提言にどう生かしていくか考えていきたい。在宅生活を望んでいるという部分について、方向性として公立芽室病院の役割、十勝の医療の中での役割分担しているところを考えながら、「最後は受け入れてくれる病院」だという位置づけ・役割を果たしていきたい。

【病院事務局】

ここ近年、花壇の整備活動に看護師や技師の方多くの職員に参加するようになった。異職間交流も増えた。また、周知をする際はどういう思いで支える会の皆さんが花壇に花を植えるのか説明を行うことから始めた。そういったことから、病院の師長が出席していい傾向になっているのではないかと。また、クラスターが起きてしまったが病院全体で支え合ったことが大きいのではないかと。PCR検査については、他の病院で料金の引き下げされたことで、公立芽室病院でも、料金の引き下げの提案をいただいた。まだ確定していないが、今後料金を下げる見込みである。包括ケアについては、在宅での看取りについてもご家族の意向を酌みながら、対応していきたいと考えているので、対応できるような病院体制を築いていきたい。

【ご意見⑤】

花壇の清掃について、現在の院長になってから、毎回参加していただいている。そういった姿を職員が見ていて、参加者が増えているのではないかと。また、院内クラスターが発生した際も、収束するまでの期間が凄く短かったと感じた。あれだけの短期間で収束させたことは素晴らしいことで、悪いことばかりではなく良いことを是非、評価すべきだと思う。地域包括については、急性期の患者さんを専門病院等へ紹介しても、公立病院へ帰ってくる逆紹介がほとんど無いという話を聞いた。最近の公立病院の体制を見るとリハビリ環境がすごく強化されていて、すごくもったいないと感じた。このような良

い機能があるのに皆さん知らないおかげで公立病院へ戻ってこないのはすごくもったいない。病院の機能を住民の方に知っていただくことが重要だと思う。総合計画に記載してもいいぐらい大事なことなのでぜひ検討してほしい。

【病院事務局】

逆紹介の部分が少ないということで、確実に患者を戻してもらえるように、近隣市町村の病院へ再度お願いをしに回ったところ。そこでポイントとなるのがリハビリである。リハビリを強化するために、スタッフ、作業療法士についても増員を行ったところで、地域包括ケアを行ううえで、リハビリは必ず必要な分野だと認識している。年配の方が体を動かす機会にもなり、かつ職員と利用者の交流の場にもなるので、出前講座についても力を入れていきたいと考えている。

【ご意見⑥】

在宅医療を進めていく中で、芽室町という広い土地で農村部まで高齢者の家を訪問することは大変なことだと思う。こういうことも病院だけで考えるのではなく町として、考えていただきたい。高齢者の方が2人だけで生活していたり、1人暮らしをしている状況では家で最期を迎えることはできないことになる。公営住宅の中に見守る人がいるような、そういう制度があったらすごくいいのではないかな。まだ施設に入る年齢ではない人、サービス付き高齢者住宅に入る年齢ではない人、自力で生活できるような人が街へ移ってきて、そこで見守ってくれる人がいればかなり充実した生活が維持できるのではないかな。高齢者の住宅の問題、交通の問題も関係してくると思うが、将来見守り制度のようなものが必要になってくるのではないかな。

【手島町長】

在宅医療に限らず、特に農村部在住の高齢者の足の確保という問題は、非常に大きな問題である。本日の昼のテーマは「高齢者支援」というテーマだったが、その中でも足の確保は大きな課題だと感じた。

生活全般としても買い物難民にならないように、そういったお話もあった。この交通関係は今政策推進課メインでやっているが、これからの大きな課題なので町全体が考えなくてはいけない。医療に限ったことでなく、高齢者の足の確保について町全体として、考える必要があると思っているので、後期実施計画の中では大きなテーマとなるのではないかな。訪問看護の部分も含めて考えなくてはいけない。

【病院事務局】

医療の分野で考えると、すべての方に病院へ足を運んでもらうことは難しいので、オンラインでの診療も必要なのではないかと考えている。現在、オンライン診療の整備という課題は抱えているが、将来的には対応できるようにしていく。

【ご意見⑦】

これからの公立病院が向かうべき方向、ビジョンを示すことは町民にとって大事なことだと思う。総合計画後期実施計画を策定するために、外から様々な意見を入れるということはとてもいいことで、見えていない部分が見えたりするので良いと思う。町民の人たちがどういう町にしたいのか逆にそのコンサルの人に教えてあげるぐらいの、どうしても提案されたことを何でもやりがちになってしまう部分があると思うので、そういう意味ではこちらから要望を言えるような町民の気質があるとよい。学校と同じように病院もなくなってしまうと一から作ることは難しいと思う。また、公立病院に行かないのは理由があると思うので、来ない理由、そういうところにも目を向けて、公立病院に受診しやすい雰囲気町全体がなっていくと利用者が増えるのではないかな。大きな病院にはなかなかできない、町民に近い存在の公立病院は大切にしていかなければいけない。

【手島町長】

ビジョン・方向性を今一度町民の皆さんへ周知していくことは必要だと考えている。病院としては、出前講座等で伝えることを考えており、町としても、ビジョン・方向性を周知していくことはこれからも

必要。そういう意味ではまだまだ町民全体に公立病院をどの方向に向ける、そういった周知は足りなかったもので、今後しっかりとやっていきたい。公立芽室病院の経営としても公的役割としても生き残っていくことを考えた時に十勝管内の中でどのような役割なのか、急性期の患者も含めて、全部公立で受けるということは現実には不可能なので、急性期ではなく、慢性期や回復期の患者が帰ってくるができるそういう病院にしていきたい。最後は自分たちの健康を守ってくれる病院として、町民の皆さんにも応援してもらい、どういう病院なのか発信していただける病院にしていきたい。公立病院を民間に移譲するとかそういう考えは持っていない。

【病院事務局】

公立芽室病院のビジョンとして、3年間の計画があったが、コロナの対応でなかなか進めることができなかった。その中でも地域包括ケアの方向には進んでいたが、町民の皆様に説明することができなかった。また昨年、ビジョンを周知する機会を開催しようとしたが、コロナで中止となってしまった経緯があるので、コロナが終息してきたタイミングで、周知していかなければいけないと考えている。

【ご意見⑧】

コンサルタントの導入ということで外部目線もいいが、働いている人達の目線も大事だと思う。もっと職員の意見を集約して、情報共有できるような環境にするべきではないのか。

【病院事務局】

ご意見いただいたとおり、職員の意見を吸い上げることに長けたコンサルを採用している。そのため、収支に数字として表れるには時間がかかる部分があるが、職員の雰囲気に変化が起きている。これからも、職員の意見を重視して、引き続き改革を進めていく。

【ご意見⑨】

コンサルの提言を受け入れる状況、体制が院内に整

っていたので、良い方向へ向かっているのではないかと。また、回復期で戻ってくる患者さんの話があったが、それ以前に今期待するのは難しいかもしれないが、救急の受け入れ率も大事だと思う。一旦公立病院へ行ってもすぐ帯広市の病院へ運ばれるとよく聞く。帯広市の病院も様々な施設やリハビリセンターを抱えているので、一度入院すると系列施設に移っていくことになる。そういった意味でも、救急の受入率も考えていただきたい。

【病院事務局】

救急の受入について、消防の体制も関係して、帯広市の医療機関へ行ってしまうということもある。また、公立病院の体制として、眼科の先生も救急を対応している現状があるので、診察できない場合には帯広市医療機関を受診してもらっている。急性期を終えた慢性期、回復期の患者を戻していただくことが重要だと考えている。

【手島町長】

救急をすべて受け入れていく姿勢は持ち続けなければいけないと考えている。

【ご意見⑩】

来年の4月1日より町でも地域包括支援センターを作って、総合的に公立病院や介護も含めて、システムを運営していくのではないかと。公立病院ができない部分、また、介護や各施設の連携などをセンターには期待したい。

【手島町長】

従来から、保健・医療・福祉の連携はしているが、それぞれ役割もあり、連携といってもなかなか難しい部分もある。町の健康福祉課や高齢者支援課が中心となって、地域でどう支えるのか整理する必要がある。その中で、公立病院や町等はどういう位置づけで、どのような役割を果たすのか、各施設や機関と共有していかなければいけないと考えている。

20：05 閉会